

第4回大阪市佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会議事要旨

日時 2019年7月23日 午後7時から

場所 佃西小学校 多目的室

委員：13名

傍聴者：1名

事務局：（教育委員会事務局教育政策課西淀川区担当）山本部長、横内担当課長、向井担当係長、
（教育委員会事務局学事課適正配置担当）大川担当課長、松本担当係長
（教育委員会事務局初等教育担当）宮辺指導主事

横内：第4回大阪市立佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を始めたいと思います。

本日は委員の皆様お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

まず、本会については、議事録の作成のため録音させていただいておりますので、ご了承ください。

また、配付資料及び議事録については後日ホームページにて公表させていただきます。

傍聴に来ていただいた方々には、入場の際に要綱の写しをお渡ししております。そこにもありますように、会議開催中は静かに傍聴することとし、発言、拍手その他の方法により公然と意見を表明しないこと、並びに写真撮影、録画、録音等は行わないこと、と要綱に定められております。みなさまのご協力をお願いします。まず、横内の自己紹介をさせていただきます。

本日の司会進行をさせていただき、西淀川区学校教育支援担当課長の横内です。教育委員会西淀川区担当教育部長兼副区長の山本です。西淀川区役所安全まちづくり担当の内藤です。学校教育支援担当係長の向井です。

大阪市教育委員会事務局学校適正配置担当課長の大川です。担当係長の松本です。初等教育担当指導主事の宮辺です。佃西小学校教頭の岡本です。

それでは第4回の開会にあたり、大阪市西淀川区長の塩屋よりご挨拶を申し上げます。

塩屋：みなさん、こんばんは。本日はお忙しい中、そしてすごい雨でお足元の悪い中第3回目の統合協議会にご出席いただきましてありがとうございます。また平素からご支援いただきまして、余談になりますが、先月末のG20サミットによる学校休校の際にもご協力いただきまして本当にありがとうございます。また、先週の選挙におきましてご協力をいただきましてありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。今回は統合協議会ということでございますが、両校の統合に関しましては本当に平素から様々なご協力をいただいているということでございます。皆さまご承知のとおり、4月の大阪市教育委員会の会議におきまして議決され、大阪市会にも上程され、大阪市会のほうでも議決されたということで、正式に来年の4月の統合が決定されております。この間皆様におかれましては、様々な観点でご意見・ご検討いただいた状況であります。本当にスムーズに両校が一緒になれるように、というところで、両校の校長先生方はじめ、教職員の方々にいろんな取組・連携いただいたことはもとより、PTA・生涯学習の方々や、地域の皆様方の話し合い等、たくさんの観点からの話

し合い、ご検討いただきましてありがとうございます。本日も、何度も申し訳ないのですが、地域の方々からの知恵をいただこうと思っております。本日は本当に貴重なお時間いただいております。よろしくお願ひの方、申し上げます。

横内：それでは、これからの議事の進行は平田会長にお願いいたします。

平田：みなさん、こんばんは。それではこれから第4回大阪市立佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を開会します。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本協議会については現時点で13名の参加となり、委員15名の過半数を超えていますので、協議会として成立しています。式次第にそって進めてまいります。各課題の整理状況について横内よりご説明願ひます。

横内：【佃南小学校の現状について…資料に沿って別添1まで説明】通学路、児童の安全にかかわる部分ですので、最終的には北山校長先生に来年4月に指定していただくことになっておりますが、事務局からこのように提案させていただきました。重要なところですので、ここままで、いったん意見交換をしていただきたいと思います。

平田：今いろいろ説明があったように、様々な課題を抱えてはおりますが、何か質問等ありますでしょうか。

阿南：この白いところ、写真①のところ、千北橋のところ降りてきたところがローソン。これ1本足らんです。ローソンの次に信号があって次の信号があってファミリーマートがあります。そしてもう3本行って学校です。この地図には縦に一本道が足りない。

平田：写真③④⑤⑥と写っているここは、一方通行のところ？

横内：この通学路のイメージとなんですけれども、写真①と②のところ、ここを横断するところは、やめましょうということなんです。南北に実線で書いてある道あるのですが、こういった道で児童の家から合流するところを細かく見て通学路を決めていきましょうというイメージ図なのです。

阿南：そういうことでしたらわかるんですけど、だから結局完全に5丁目に千北橋から行って、南小学校に向いていく道路ありますよね。ここを渡っていくような感じということですよ。この手前の川行くっていうのはないんですね。バス通りを渡っていくということですね。

横内：児童が南から北にわたすところを決めていこうということです。西にちょっと戻ってもらってから佃中央通りに上がる児童もいます。今西に通っている児童は佃通にでて通学していない。ここまで出ずに、真ん中の道を通っています。

阿南：今西に通っている児童は、佃通に出ず、真ん中の道を通っている。佃通に出るように通学路を定めるのであれば、それをちゃんと親御さんに説明してもらわないと。ここ（写真1と3の間、2と4の間）に住んでる子どもが写真34まで戻らないといけない。

横内：写真1、2の交差点を横断するのはもうやめようという話なんです。来年の四月までに、佃南の新1年生がどこに住んでいるのかをきちんと調査してから、再度調整していこうと思っている。

阿南：今西に通学してる子たち、バス通りを通らずに、裏の道を通ってる。その子たちも通りまで出でてもらうわけやね。

富高：ここでする話かどうか分からないんですが、今実際にこの写真あたりに住んでいる子で西に通っている子たちで緑の点線を通っている子たちが実際にいるんですね。その子が佃通を通るのはいいんですけど、立ち当番の方が、ここに一人だけっていうふうにお聞きしてるんです。阿南さんが立っいでいただいている。

阿南：西の校区の場合は、南から西にわたるのは、校舎の前のところだけでしょ。歩道もあるし。ただ、

南の校区の方では、車が縦横無尽に来るわけですよ。だから、本来なら人数が足らんのは事実です。西さんの場合はね、ただ千舟の子どもが渡るだけの話。千舟の歩道橋渡っていく。

富高：ただ、地域の方立っていただいている、それによって私たち保護者の立ち当番の場所も決まっている。

阿南：保護者の立ち当番の人数が足りないという話やね。佃西さんは子どもが500人近くいらっしゃる。そうすると所帯が350から400近くいるんですね。ところが佃南の場合は、59人で、40世帯弱なんです。今専業主婦（夫）の方はほとんどおられません。となってくると、西さんができていることを南にも求められると、南の保護者の方々は到底できないですよ。かといって地域の人に協力してもらってるかという、現在4人です。だから、南から出できたところ、ローソン、ファミマで4人しか立っていない。だから人数が全然足らんのはね、言わないでください。

平田：よろしいですか。これはね、ちゃんと通学路が決まって、どこに子どもが出てくるから、どこに立たなあかんのか、地域の人、PTAの人たちと協議をして、それで立ってもらおうと。そういう形にしてもらわんと今どうやこうや言ってもあきませんので、今日はこれくらいにさせていただきたい。

阿南：人数が足りないのは重々わかってます。ただ西さんと南では違うと。そのあたりは考慮していただければ。

丸尾：それともう一つお話させてください。すごく個人的な話ですが、私の娘も障がいのある子です。でも、姉と二人で普通に通学できているんです。見守り隊の人が要所要所の信号のすべてに立たれていて、毎朝声をかけてもらって、ローソンのところも安全に通過できているんです。南から西に行く人が増えるのは確かでしょう。私の個人的な意見ですけど、うちの娘が通えていたら、大概の子は大丈夫だと思います。「どこに立つかっていうのは私たちの中でも再度協議しないといけないね」、という事になっていますよね。でしたら、これも協議の上でということにしたらいいんじゃないですか。

平田：そういうことで、またちゃんと決まったら、みんなで協議して、子どもがけがしないようにしてみんなで守っていくということにさせていただきたいと思っています。

中本：今言ったように、住宅とかこれから調べて、要所要所決めていくんですね。前僕が言わせてもらった、集団登下校の話は、案には入ってるんですか。

横内：そこまでは煮詰めてないんですけど、登下校の時間は決めなあかんとは考えています。

中本：やっぱり最初は集団登下校を案に入れてもらった方がええかなと思います。

平田：これ通学路ということですけども、線とか引いてもらえるのか、グリーンの線とか。

横内：今回の5月14日の交通安全プログラムの時に線が消えてたりしましたので、そこはできることから塗りなおしていくということはしていきます。北側を通学路という風にきちんと決められれば、合意が必要ですがそこを中心に横断防止柵等を設置していく検討に入れると思います。

平田：合意というのは？

横内：一応大阪市が横断防止柵をつけたいので、よろしいですか？という合意ですね。

平田：民間の人の承認をとるということやな。それが取れたら、OKが出る、ということやな。

横内：まあ、あとは予算、お金の話になってきます。

平田：お金はまあ大阪市が出したらええがな。そういった形も考えてもらってるので、みなさんで気づいたことがあればお願いします。

今、児童の登下校の話をしておりますが、それ以外で今の説明のなかで聞きたいことはありませんか。というのは、今日のこの会議で、全部が決まった方向で進まなあかんということで、後から思い

出したでは済みませんので、気づいたことあったらよろしく。

井上：歩道に植木を入れるように印つけてますよね。

横内：高木を低木にするという、すぐには無理ですけど。

井上：北側に作っても良いのかどうか。道は、まっすぐ歩かれへんわな。今言うてる数を減らすとか、いっそのこと無しにするとか。

平田：それはね、今後の25日の地活の運営委員会の時に説明しようと思ってます。今建設局のほうから佃大通りの木が、枝がもろくなったり、大きくなったりすぎたりしてて、15本くらいやり替えるという話をうけているので。

井上：2丁目3丁目のあたり。なんか白線でしるしつけてるんですよ。それがものすごいたくさんある。それが通学の邪魔にならんかどうか。

平田：今印しているところに植木をのけるのか、立てるのかというのはちょっとわからんけれども、ちょっと資料また見てみます。なんやったら、公園事務所から来てもらって、説明してもらってもいい。

井上：結構5～6m間隔で植木を入れようとしていますからね。

平田：できる限り小さい木でやろうとしてるみたい。大きいので信号見えなくなっても。西淀川区区内では、今年予算では、佃中央通りだけ。よその地域ではやりません。ということで聞いています。

丸尾：佃保育所のところって、もうそろそろ移転されるんでしょうか。

平田：はい。

丸尾：自転車がすごく勢いを出して佃保育所のほうへ行きます。子どもが横断歩道歩いているところを、お母さんたちも急いでいるので、すごく勢いを出して通って行かれます。そのあたりでは、少しでも植木がないほうが、幅が広がります。

横内：たぶん緑化率の関係で最初は決めただと思うんですね。ご意見はいただいて、伝えておきます。

丸尾：本当に危ないと思います。

平田：今佃保育所が元のところに帰るといって、もうぼちぼち工事がかかるのかなあと思っておりますけれども。そこはまた、戻ると公園になりますんで。またゲートボールとかの活動をしてもらえるようになるかなと思います。まだ、移転もしておりませんので先のことは詳しいことは言えませんが、来年になったら何か変わるという報告だけは聞いております。ほか何かありませんか。

菅野：通学の時間帯通行止めとかそういう話は警察との間で出なかったんですか。

横内：工業地域の産業道路に続く道なんで、そこはそういう話はでませんでしたね。危ないというのは確認しましたけれども。

菅野：千舟大橋なんかは通行止めになってるからね。

横内：3丁目はほぼ住宅地なので、時間帯によっては規制が入ってるというのは聞いた。

阿南：だから何回も言ってるように4丁目と3丁目を境に佃の状況が全然変わりますから。トレーラーが回る時なんかは、普通の二車線ではいっぱいいっぱい、はみだして大きく回って曲がっていかん状態なんです。だからそこを通行止めとかそういうことになると、企業さんも大変なことになるともうので、それは無理かと思います。

平田：ほか、ありませんか。ほんならぬようでしたら。

横内：一回先に進ませてもらいます。【別添2-1より、交流学習について説明】佃西小学校の校長先生より、これまでの活動について説明してもらいます。

北山：【別添2に沿って説明】これらの計画については、両校の教頭先生を中心に各学校で教職員に働

きかけて策定したものです。私たちが思った以上に教職員は熱心に計画を立てておりまして、例えば8月30日の大阪市立科学館の見学では、行く前に佃南小学校の児童に来ていただいて、班分けをして、見学の計画を一緒に立てようとしております。4年生のプール水泳も、天候に恵まれて無事に実施することができました。最初は佃南小学校の保護者の方がほとんどだったのですが、途中から佃西小学校の保護者の方と連絡を取り合ったりして増えてきまして、児童だけではなく保護者の方の交流も進んでいるのかなと思った次第です。5年生のスポーツテストは雨で延期になったんですが、講堂でセレッソのコーチの方と児童が講堂でフットサルの試合をして、特別支援学級の児童がシュートを決める、といったようないい場面もありました。

横内：ありがとうございます。3学期になったら支援学級への取り組みも始まると聞いておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

平田：松井校長先生、子どもたちはどのような状況だったのかな、何かありましたら。

松井：数に圧倒されているというのが最初の印象ですね。特に5年生は、1クラスの人数も多いのに3クラスもあって、面喰っちゃったようですが、もともと地域で顔見知りの子もいるので打ち解けて、だれだれちゃーんと声かけてもらえたという風に喜んで帰ってきてました。1年生の子たちは、保育所で一緒やったとかいって報告上げてくれてましたので、まあその子たちにはハードル感じてないかなと。ただ授業という形での交流では今のところないので、うちの児童は絶えず複数の先生に見守られた授業をやっていますので、自分からアピールしたり積極的に手を上げないと当ててもらえないよってというのはこれからの課題かと思います。印象としては子どもたち好印象で帰ってきていると思いますので、よかったな、と思っています。

横内：引き続き、別添3の統合に向けた校舎整備というところで、様々な改修を予定しているところで。これまでもお伝えしました通り、4つの教室を普通教室にする改修工事ということで今進めております。今まで空調がなかった教室に空調設備を整備して、新たに倉庫を設置します。それから特別支援学級にシャワーブースを設置します。多目的室は平日はカーペットを敷いていきいきの部屋にします。佃南のチャボは禽舎を改修して飼います。

平田：今佃南は避難所になっていて、備蓄物資とかあるじゃないですか。それはいずれは移さないといけなくなんですか？

横内：佃南小学校の災害時避難所をどうするのかという話が、別途出てきますが、いずれは移さないといけなくなると思います。

塩屋：今後の佃南小学校の活用状況にもよるでしょうね。

平田：佃西に物資を置くということになれば、対象人数が増える、ということになるので、どうなってくるのかな。考えていかなあかんと思います。

横内：うちの防災担当のほうにですね、佃西の備蓄物資を見てもらって、まず教室とかにある物を上にあげてもらいます。今の備蓄倉庫はキュウキュウな状況ではあります。あとは災害救助部長と話を進めていきたいなと思っております。

それでは先進めまして、標準服についての説明。教育委員会事務局より説明してもらいます。

松本：【別添4により説明】ワッペンと帽子をこちらで人数分ご用意しまして、貸与という形にはなるんですが、お渡ししようと思っています。あと、学校を通じて帽子のサイズの希望調査を行いますので、ご協力お願いします。

内田：ワッペンについてなんですけど、支給はいいんですけどつけるのはどうするんですか。

松本：予定としてはお渡しして、各家庭でつけていただく形になります。

内田：佃西小学校の制服の規則が緩くて、佃西のワッペンが半数くらいつけていないのではないかと思います。必ずしもつけなければならぬのならつけますけど、佃西の子が着けていない状況は校長先生はどうお考えですか。

北山：制服交換会やご兄弟、友達同士で標準服を譲り受けるということもあるということも聞いております。クラス写真の時、行事のときは標準服を着るようにしておりますが、ただ、今までワッペンがついていないということで教職員から指導したことはないです。昔あったみたいに、風紀委員を定めて、絶対に着けて来なくてはいけないなどということはしていません。しかしまあそういわれると、やはりきちんと着けた方がいいのかなあという思いはあります、

内田：別にないならいいんじゃないの、ていうことなんです。40人分ということですが、予算が必要な話ではありますし、無理に使っていただくなくてもいいんじゃないかなと。やはりつけた方がいいというのなら、佃西の保護者の方にもつけてくださいという方向でちょっと指導していただければいけないのかなと思います。今のところのちょっとどっちもどっちな感じが。手間は手間なので。なくていいなら…。

中本：基本的になくていいということはないねん。きちんとつけるのが当然やねんから、西の子が着けてないことに対しては西の方から言えば良いことで、南の人がどうこう言うのは違う話やからかな。

内田：つけていったのに佃西の子が半数以上つけてなかったら変だから。

富高：4年生の上の子の時は、ご家庭でつけてくださいということで、箱の中に入っていた。下の子の時はすでにつけられた状態で販売していた。その違いが、もしかしてついてない子が多い原因かもしれないなど。

区長：子どもたちのこと考えたらついてる方がね。堂々とつけていたい。

内田：南小学校では、低学年と高学年、サイズが変わればワッペン付け替えてましたけど。今回こういう議題について考えたときに、西はそういえば制服緩いなあと思っていたので。申し訳ないですけど。

中本：つけてたけど、取れたんとちゃうか。校長が言ったように、遠足とか行った時には安全のためにもワッペンつけとかなあかんやろから、ないのはおかしいやろ

内田：その指導を今年度しっかりしてほしい。

阿南：つけたり外したりできるようになってんの？

丸尾：違います。縫い付けます。

阿南：1回つけたらええだけやろ。

内田：1年から6年までサイズ変わってくるので、2回くらい縫い付けないといけませんけど。

阿南：それくらいちゃんとせなあかんわ。サイズ変わるけど二回くらいやろ。

丸尾：裏にアイロンでつける糊があるのですが、外れてしまいますので、縫い付けます。

中本：これを機につけるといって行きましょう。先生よろしくお願いします。

北山：1点だけ、中学校の場合は制服という言い方ですが、小学校の場合は標準服という言い方をしております、強制というところではありません。

阿南：もう全部外したらよろしいやん。式とか遠足の時だけつけるとか。

平田：この話すごくわかるんですけども、この委員会ではつけるとかつけないという話は置いていただいて、実際はPTAさんと学校さんと話し合っていて決めていけばいいと思います。いかがでしょうか。この話、朝までかかっても決まらないかもしれない。この委員会で話すことではな

いのかなと思います。教育委員会事務局がワッペンを用意しますよと言うてくれたことだけは聞いておいてください。

丸尾：ワッペンと帽子について、貸与とおっしゃいました。返さなければならないのでしょうか？。

松本：細かくて申し訳ないですが、各家庭に物を渡してしまうと、ご家庭の所得になってしまい、所得税がかかってくる。ご家庭にご迷惑をかけないため、あくまで貸与としていますが、免除規定は設けています。実質的にはお渡しますということ。なくしたときは各自で。今回は行政のほうで用意しますということです。

中本：校舎建て替えに関してやけども、もう学校も廃校になって、で、廃校になってから校旗とか名簿とかを保存して、子どもが見に行ったりするスペースができればええかなと思っています。スペースの関係やからなんとも言われへんけど、案として聞いておいてほしい。

横内：はい。それでは引き続きまして、ご意見箱に入っておりましたご意見をご紹介させていただきます。昨年の8月9日から両校にご意見箱を置かせてもらいまして、5月9日と7月3日にご意見がございました。すでに回答させていただいております。【別添5-1～別添6-2に沿って説明】

平田：説明していただきました。どうですか、何か、この場で横内のほうから説明がありましたので。その説明に対しての質問等あれば、よろしくをお願いします。

丸尾：追加でご検討していただきたいのが、わたくしの娘がこの3年生に所属しております。実際私もこの場に立ち会ったのですが、子どもたちはとても緊張していました。みんなに見られている…という状態で、しゅんっとなっている子もたくさんいました。児童がトイレを使わせていただいた際には、「水道が南と違う」、「靴箱がないけどどこで履き替えるの?」とか、「いきいきってどこにあんの?」といった子どもの声が聞こえてきました。この意見書は私が書いたんですけれども、支援籍の児童だけではなく通常級の子もたちも、「実際たくさん子どもがいる中で自分がどういう状況に置かれるか」ということは実際何度か経験しないと想定できないので、お願いしました。「ここトイレね」、といったことを、4月に実際統合した時に新1年生みたいに先生方が懇切丁寧に教えてくださるわけではないと思うので、さらっと見ることで、ちょっとでもハードルを下げる、心理的なハードルを下げるっていうことを、検討いただけないかなと思いました。以上です。

平田：ほかありませんか。さっきのことは検討ということで、

横内：また交流今度するとき、こういうご意見を受けて、配慮してくださいということはお伝えします。

平田：そういう形でよろしいですか。

丸尾：はい。

中本：あと最後にもう一点、教員というところで。できたら佃西小学校もどんどん人数増えてるとこやし、当協議会で、前回市教委の方にお願したんですけど、できたら南小学校の先生を今回特例として異動させていただいて、南と西は一緒なんだから、南から西へ移るのではなくて、南と西は一緒ということで、合同というか、合併できたらなど。教員もそのままにしてもらえたらどうかなという提案なんですけども。南小学校から異動ということではなく、南と西は合体するんですから、子どもも合体、教員も合体するということ。今南小学校の先生は何名ですか。

松井：教員自体は10名ほど。加配も含めてそのくらいなんですけれども。ただね、今おっしゃってもらったことは重々わかるし子どもたちにとってもメリットはあるんやろうけども、私も教育委員会事務局のシステムとして、統合にかかわる人事異動の仕組みについての説明は来月の頭に担当者、教

職員人事担当のほうから説明を受けることになってます。ですから、私としてもこうなります、というのは言い切れない状況です。うちにも今現在産休や育休とっている者、今後入る予定の者が3名おられます。ちょうど復帰に時期に統合となってくる。保育所通ってる子どもさんがいるとか、子どもの看病等で早く帰らないといけないということがあると、通勤経路によっては佃であることが足かせになるってこともあるので、本人が希望するかどうかということがあると思います。もちろん、子どもたちに愛情があって一緒に行きたいという思いがあっても、通勤経路に無理があって叶わない、ということも起こりうる。だから、その辺のシステムについては人事担当のほうとやりとりを行った上で、下におろしていきたい。それと、学級数によって定数が決まっておりますので、わずか40人のうちの児童が西に行くことによってうちの先生10人みんなが西に行ってしまうと、西はフローしてしまうので、西から玉突きで出ていかなあかん先生も出てくる。その数の関係の問題は、これからすりあわせかなと思っています。

中本：細かいすりあわせは今後、ゆくゆくしていただければよいと思います。

丸尾：現在佃南の子どもたちは、6年生は19人いますが、校長先生もおっしゃっていたように、多いときは4人の先生に見ていただいているんですね。私の娘は国語と算数は支援級に取り出していただいているんですけど、先生と1対1で勉強してるんです。これはそのように望んだわけではなくて、ただ人数が少ないからそのような状況になったっていただけなんですけど、この表を見ると、支援籍の児童がおおくて、今までとは学習環境があまりにも違いすぎます。1年2年3年とそれまで積み上げてきたところから、がらっと環境が変わってしまいます。うちの娘だけでなくほかの子たちにとってもかなりハードルが高いと思います。保護者の方で、「何人いきますか」という意見書を書かれた方は、実際自分たちの子どもが交流学习でしゅんってしてしまっているのを見て、「あ、これこのまま何も意見を言わなかったらちょっとまずいかもしれない」、と思ったと思うんです。先生、「努力したけど何人も来ませんでした」では本当に困るんです。十分力をつくしていただければと思います。お願いします。

大川：先ほど校長先生がおっしゃられてたんですけど、確かにシステムはあります。ただ、その中でも、現場の先生の意向を、校長先生の意向をというのを踏まえて対処するよというの、我々から人事担当には伝えておりますので、それは、今後、議論を見守っていただければと思います。

松井：今のことと被るんですけど、要は子どもたちのハードルを下げたいということですよ。西に受け入れていただける担任が何人かはいたとしても、絶対数としては圧倒的に少ないので、一人一人の子どもたちの状況について、西の先生方にも共有していただくような態勢をとっていかなあかんということは我々も考えております。個人情報であっても、同じ佃で統合する学校なんで、子どもたちの個別の状況については、カルテのようなものを作成して、きちっと誰が見てもどの先生が見られても、ひとりひとりのことが把握できるような、学習状況であったり、日々の生活の状況であったり、その子の得手不得手、できるできないというものをきちっと作成して引き継ぎたいと思っています。で、何名かでも西の方に入る余地があるのであれば、うちの教師のほうも希望していってくれるっていうのが、あればですね、そこをキーマンにして子どもたちの状況を西の方に発信していくというすり合わせが始まっておりますのでまた進捗についてはまた伝えていきたいと思えます。

平田：どうですか。あとはございませんか。多分もう1回くらいこういう機会はありますが、あんまり中身の濃い話は少ないかもわかりませんので、できたら今回質問等々あればおっしゃっていただ

いて、で、答えを出してもらえるようにできたらなど。ないですか。無いようでしたら終わってもよろしいかな。

横内：統合までのスケジュールなんですけども、来年令和2年2月の29日佃南小学校の閉校式を予定しております。改めてご出席いただける方にはご連絡差し上げようと思っております。

平田：ありがとうございました。ほんなら、説明はこの辺にさせていただいて、第4回大阪市立佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を終了させていただきます。今後いろんな問題等につきましては事務局において関係者の皆さんと調整を重ねて参りたいというような形をおっしゃっていただいております。さらなる皆さんのご意見等ございましたら、おっしゃっていただければと思っております。次回は先ほど言いました通り、大きく状況が変わらなければ、12月ぐらいにもう一度開催を検討していきたいなあと思っております。よろしくお願いたします。長時間皆さんありがとうございました。